

# 1 自己評価及び第三者評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894100037		
法人名	社会福祉法人 太子福祉会		
事業所名	グループホーム 太子の郷		
所在地	兵庫県揖保郡太子町太田231番地1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/ahvokaJisseki?OpenAgent&amp;HN0=28030012&amp;OC=01">http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/ahvokaJisseki?OpenAgent&amp;HN0=28030012&amp;OC=01</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成30年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様・家族様と向き合う姿勢を持ち続け、心優しく心温まる接遇、心地よく心休まる環境、心強く心配りを大切に介護を徹底し、喜怒哀楽を分かち合いながら自分らしく生活できるようお手伝いしています。</li> <li>・季節が感じられるくらしを大切に、中庭を活用した花・野菜作りを行っています。</li> <li>・日々の生活の中で、時分時には食事の香りが漂い、テーブルを拭く、お箸の準備をするなど、また、洗濯物・タオルたたみ等、自分のできることをしていただきながら、当たり前の暮らしを大切にしています。</li> <li>・共同生活の中で他者を思いやる気持ちを大切に、お誕生日会を全員でお祝いしています。</li> </ul>
--

## 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同じ建物内に小規模多機能型居宅介護やユニット型特養等があり大きな催しなどを共に行い顔見知りができる等事業所間の交流が容易になっている。</p> <p>地域交流スペースでは近隣のこども園や小学校の子供達による歌やミニ運動会、地域のボランティアによる楽器演奏・餅つき等のイベント、さらに認知症カフェを開催したり町役場からの依頼で介護予防教室を運営する等、地域の高齢者福祉拠点として親しまれている。</p> <p>同じ建物内に足湯、家族にも人気の喫茶室、自動販売機等があり気軽に利用して楽しめる。又、中庭が多く緑が目に入る、玄関を出ると周りに山々が見える等施設内外共に環境に恵まれている。今夏の度重なる災害には排水困難等を体験し、備蓄品を1週間分に増やす等危機管理の見直しをしたり、停電時自家発電が稼働する等災害対策を講じている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム 太子の郷

評価機関: 認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念として、「ほんまもの介護」を追究し、地域社会に貢献できるよう常に意識し、理念に基づいた支援が行えるように取り組んでいます。	法人の理念と施設の運営方針を事業所の壁に掲げるとともに職員のネームカードの裏にも入れて、職員への浸透を図っている。年度初めに事業所ごとの方針を発表する際にも、施設長が法人理念に立ち戻り確認する話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人のこども園や近隣のこども園、小学校との交流会や、各種ボランティアとの交流会、又、小学校の音楽会予行演習に招待されるなど、交流の機会を活用しています。	近隣のこども園や小学校の子供達が訪問して、歌や合奏、ミニ運動会などをしてもらえるほか、地域のボランティアが月に1~2組はオカリナ・大正琴演奏、餅つき、フラダンスなどで訪れる。施設で年4回催す介護予防教室には住民が100人以上参加する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単体では活かしきれていないが、施設全体では認知症カフェを立ち上げて定期的に地域の認知症に興味を持たれている方々に対してイベントや講義などを開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、偶数月に定期的に開催している。太子町職員・家族代表・地域の代表の方に参加していただいています。利用状況や各種報告を行い、意見交換を重ねて改善に繋がっています。	グループホームと小規模多機能型居宅介護・小規模特養の3施設が合同で運営推進会議を開く。太子町と地域包括支援センターの職員、地域住民代表が出席するほか、3施設の家族代表が交替で2施設ずつ出席し、活動状況報告や意見交換を行う。	運営推進会議の議事録はグループホーム単独で作成し、現在は割愛されている事業所の活動報告や事故報告を記載し、家族への報告又は公開も工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	太子町高年介護課の担当職員に相談しています。運営推進会議にも2名参加していただいています。	太子町役場とは介護保険の手続や事業所の運営など何かにつけ電話や訪問で相談したり打合せする関係である。施設・事業所から町に対しては学校等での認知症サポーター養成講座開催や地域の認知症住民への声掛け・誘導訓練などで協力を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で、拘束しないケアを理解し、実行しています。月に1回、事業所内で勉強会を実施し常に意識できるよう努めています。	ユニットの入口は開設以来開錠してきたが、現在新しい入居者が昼夜の別なく出入りするため期間限定で施錠している。離床センサーは事故防止のため家族に了承を得て6人に設置している。月に1回は拘束しないケアの勉強会を事業所で行っている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で職員研修を実施し、高齢者虐待防止について知識を深め、常に意識できるよう努めています。月に1回、事業所内で勉強会を実施し常に意識できるよう努めています。	年2回は事業所で身体拘束と虐待防止の研修会を行う。月に1回は虐待防止についての勉強会を開き、グループワークで事例を学んだり自らのケアを振り返る等している。管理者・主任が職員の言動に気付いた時は指導して、不適切ケアの抑止に繋げている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、保佐人が付いている入居者様が1名おられます。相談があれば、対応が出来るように管理者は理解しています。	現在1人の入居者が成年後見制度を利用している。保佐人の司法書士とは適切に連絡を取っている。事業所では成年後見制度についての相談等はまだ無く、権利擁護の制度についての研修は施設全体でケアマネや相談員を対象として数年に1度開催している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接時に、契約書と重要事項説明書の説明を行い、理解を得ています。法改正や加算等変更の際はご家族へ説明文を郵送し理解を得るようにしています。	利用契約時には管理者が契約書と重要事項説明書及び「重度化対応に関する指針」を30分程度かけて説明している。1ヶ月以上入院した場合は契約解除となるが、柔軟に対応していることも説明し、納得を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設置し、意見を伺えるようにしている。 家族様と個別に話をしたり、家族会で意見交換を行うなど検討する機会を作っています。	家族の訪問時に管理者等がよく話をするほか、昨年から12月に開催している家族会でも、意見・要望を聞いている。例えば家族の要望で手先の器用な入居者に用具を揃えて編み物をしてもらい作品を施設で活用するなどした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い、意見を聴く機会を作っている。	毎月のユニット会議や年2回の面談などで職員の意見・要望を聞いている。勤務の長さや出勤時間帯などの個別要望も出されるほか、最近では運営に関する職員意見の反映として、1階の喫茶「ひまわり」の開催曜日を週2日から5日に増やすなどした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、面接を通して向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や希望者に外部研修の参加を支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は今のところ持ったことはないが、施設内の他部署との交流は行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で要望を聞き取り、取り入れるようにしています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や退院後等に家族様の不安に思われている事、困っていることを聴き取り、不安や心配を取り除けるように努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をふまえて、状況提供を行いながら、納得のできる利用に努めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、残存機能を理解したうえで、その人らしく生活が送れるように心がけています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での近況の報告に加え、共に支援していくという意識を持っていただき、協力していただけることは依頼しています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にお聞きしながら、面会者との交流を支援したり、ご家族様により馴染みの喫茶店に出かけたり、美容院に出かけたりされています。太子の郷の他事業所のご利用者との交流も大切にしています。	面会者や電話があった場合は家族に確認して繋ぐようにしている。馴染みの美容院利用、墓参りなどは家族の協力で実現している。年4回の介護予防教室に来た知人との交流もある。運動会の対抗種目などでは施設内他事業所利用者との交流も楽しんでいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に関わることも大切にしながら、自然に交流が出来るようなテーブル席の工夫を行っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的に相談されることはなく、支援には至っていませんが、退居時にご相談等あれば連絡いただくようお願いしています。お会いした時には何気ない会話をしたり、声を掛けていただいたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、思いや暮らし方の思いを汲み取り、意向に沿えるように努めています。ご自分の言葉として言えない入居者様には、表情や行動から感じ取るようにしています。	日々のケアの中では、入居者同士の会話やテレビを見ながらの会話等から思いを得たり、表情の硬い方には寄り添い傾聴をしている。言葉が出ない方には、ジェスチャーや紙に書く、不機嫌な時は空腹や排泄を推測する等で意向を把握している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの聴き取りで生活歴の把握に努めています。日々の関わりの中から、生活歴をお聞かせいただけるようなコミュニケーションを図っています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子・体調の変化を見逃さないように観察に努め、職員間でノートやケース記録などを活用し、情報の共有に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、入居者様・家族様から聞き取った要望をもとに計画を作成しています。	入居前に管理者が自宅等を訪問し家族を交え聞き取りを行い介護計画書を作成している。ユニット会議で月1回のモニタリングを行い、入居者の状態に変化があれば、介護計画の見直しをしている。変化がなくても半年に1回見直しをしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、職員の連絡ノートを活用し、変化により早く気づき対応できるようにしています。必要に応じ、カンファレンスを開き、統一したケアが図れるようにしています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の定期受診は家族様へ依頼していますが、緊急時には送迎・付き添い・情報の提供など柔軟に対応が図れるように行っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回の音楽療法の参加や歯科衛生士の口腔ケアの指導を受けて楽しみと安全に生活できるように努めています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医を利用いただく事を基本に、必要に応じて囑託医の診察を受けることが出来るように支援しています。歯科については訪問診療の依頼などの相談も受けています。	14人が入居前からのかかりつけ医を利用し残りの方が協力医を利用している。かかりつけ医の受診は家族の同伴で行うが、急を要する時は職員が同伴して受診支援を行っている。歯科は月1回の往診を利用している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、定期受薬の準備や、情報の共有を図り、相談や必要な処置、今後の対応についての指導を受けています。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを渡し、利用時の情報提供を行っています。退院時にはサマリーをいただいたり、必要に応じて医療連携室相談員と情報の共有を図っています。	入院時には、入居者の情報を記した入居者引継ぎシートを病院に提供している。入院中は様子を見に行き、退院時には病院から看護サマリーの提供を受け、家具の位置の確認や必要な備品を設置する等してスムーズな入居に留意している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を説明し、ご理解をいただいています。又、日頃から出来ることできないことの説明を行い、最終的には家族様の意向を伺いながら、納得される方法を選択できるように支援していくことになると説明しています。	看取りを行った事はまだないが、今後は体制を整えて終末期から看取りまでを行う事も可能になるように取り組んでいこうとしている。現在はなるべく施設内で長く過ごし最後は病院搬送を希望している家族が多い。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的には救急マニュアルに基づいて対応をしていきます。両ユニットで協力できることは行っています。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練の実施や救急救命研修に参加し、もしもの時に備えています。	年2回法人全体で、出火場所を想定した火災、避難訓練を行っている。頑丈な建物なので火災以外は建物内に留まるとしている。今夏の豪雨や台風で排水困難や停電を経験したが、ポータブルトイレや使い捨て食器の使用、自家発電の作動で過ごせた。	今夏の経験を活かし備蓄品を1週間分に増やし充実させた事を今後も継続される事を期待します。訓練時に町内会長等近隣住民に声をかけ参加していただければいかがでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修や倫理等の研修を重ねており、入居者様は人生の先輩であるということを念頭に置き、個々の人格を尊重した対応を心がけています。職員には守秘義務の徹底を図っています。	入浴介助では脱衣後にタオルをかけ肌の露出を少なくしている。トイレ介助で着替えが必要な時は、他の職員に連絡して届けてもらい、糸がほつれているので縫う間こちらを着ていてください等と言って着替えをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でご本人の思いや希望を聞き、自己決定が出来るように心がけている。意思表示が難しい入居者様も、表情や行動の観察によって思いに近づけるように努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など基本的な一日の流れは概ね決まっていますが、その中で個々のペースで柔軟に対応し過ごしていただいています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、自己選択を第一とし、必要に応じて助言をするようにしています。化粧品等は、ご家族様に依頼し、準備・補充をしていただいています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士により栄養のバランスが取れ、入居者様の状態に合わせたものが提供できるように工夫しています。準備など出来ることは、見守りながらしていただいています。	同一建物内の厨房で調理し事業所に届けられる料理を職員が盛り付けている。入居者は机ふき、ランチョンマット敷き、おしぼり作りや後片付け等を共に行い会話しながら食事を楽しんでいる。誕生日会には好物をみんなで調理したり、外食を楽しんだりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎回記録に残して把握できるようにしています。聴き取りを行いながら好みのものを飲んでいただく工夫も行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、入居者様に合った歯ブラシ等を使用していただいて、声かけしながら行っています。磨き残しのところを、職員が行っています。義歯については、洗浄剤使用し夜間に補正に努めています。			

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表に記録し、トイレ誘導・見守りを行っています。	入居者の約半数の方は自立している。1人はオムツを使用、残りの方はリハビリパンツで過ごしている。朝食後に便意がある。排泄表からパターンをつかむ、仕草を読み取る等して声をかけトイレに同伴している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量の管理を行い、ご家族様の協力の元、必要に応じてヨーグルトの提供を行ったりしています。日頃から、排便状態を観察し、看護師に相談しながら、個々の対応を図っています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は曜日を決め週に3回の入浴を行っています。入居者様の状態や意向を伺いながら、曜日の変更を行ないながら実施しています。2人対応や3人対応をおこないながら、皮膚の観察を行っています。	通常の個浴槽と機械浴槽があり週3回の入浴を楽しんでいる。こどもの日にはしょうぶ湯、冬至にはゆず湯を行っている。声をかけた時に気分が乗らない方には、時間を置いて誘ってみる、別の職員が声をかける等して入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や要望を伺いながら、生活リズムを大切に、心身ともにリラックスできるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行い、1日分のシートに入れ分けていただいています。変更や内容についての情報を共有できるように一覧表で確認できるようにしています。誤薬・飲み残しがないように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを把握し、個別の対応や、全体で楽しめることなどを考えて行っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら、個々の外出はしていただいています。気候に合わせて、施設の外を景色を見たり、休憩をして歌を唄ったりして、楽しんでいただいています。ご希望により外出行事を計画しています。	施設周辺の散歩、ユニット内の中庭に植えた野菜の水やりや収穫等はほぼ毎日行っている。喫茶店や外食も時々出かけている。4月には全員でお花見に出かけた。家族同伴で入居者の行きたい所へ出かけている。	喫茶室や足湯に行った帰りに玄関を出て外の景色を見たり少し歩く等わずかな時間でも行っている散歩をこれからも継続すると共に、もう少し出かける時間を増やしていく事を期待します。散歩の情報をもっと家族に知らせてはいかがでしょうか。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度をご自身で持っていていただく入居者様もいらっしゃいますが、施設立替請求対応での購入をしていただくことも行っています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、公衆電話の使用を支援しています。携帯を持っておられ、一部支援によって使用はされています。ご家族様の協力を得ながら、はがきの投函や、届いたものについては、お渡ししています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたディスプレイを一緒に行ったり、季節の生け花を楽しんでいただけるように行っています。温度調整は、共有スペースは一括管理されていますが、居室については、聞き取りながら肌で感じながら調整しています。	広くて明るいリビングの壁に季節感のあるみんなで作った飾りを掲示している。加湿器がある。毎朝入居者の起床前に空気交換をしている。毎日清掃を行いトイレや浴室も清潔にしている。ユニット内の中庭、ハーブが植えられた中庭等緑が多い。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや座席のレイアウトを変えてみたり、気の合った方とのかかわりや、一人でテレビ鑑賞ができるように支援しています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・家族の写真・仏壇などを持ち込まれたり、ご家族様と相談しながら、穏やかに過ごせるような環境作りに配慮しています。	入居者が持ち込んだ馴染みの物を、居室の担当者が入居者の導線を考慮し相談して配置している。体調不良の方の居室には加湿器を置いている。起床後窓を開け空気交換を行っている。週3回入居者と共に掃除をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定になってこられた入居者様には、補助具を紹介しながら、PTの指導を受け使用につなげています。日々の変化に留意し、職員間での情報の共有を行い、残存能力が活かせることが出来るような支援に努めています。		